

「禪宗學關係論文目錄」

(自昭和十四年一月
至昭和十五年十二月)

前篇 東洋的に形而上的なるもの

東洋的無

眞佛の所在

聖の否定としての禪

禪

禪藝術の理解

禪の辨證

プロテインス

神と創造

實主未分

後篇 (略)

「行道佛敎學」 釘宮武雄著

菊判 三五九頁 昭和十四年九月

定價參圓參拾錢 東京弘文堂發行

(目次)

「禪宗敎理關係」

(單行本)

「東洋的無」 久松眞一著

第二篇第二章 頓行道の種々相と木質
第三節 直證的頓行道

1 禪宗(臨濟宗及び曹洞宗)

一 南頓(A直證如來地道)―B頓悟頓修の兩道―C歴史的

意味)

二上、臨濟宗(A公案禪の本質—B公案拈提の實際—C公案の用)

二下、曹洞宗(A本證妙修—B實踐—C悟との關係)
三 行道の本質(A教禪の相違點—B漸行道との相違點—C直證的頓行道)

「正法眼藏の哲學私觀」 田邊 元著

四六判一〇四頁 昭和十四年五月
定價九拾錢 東京岩波書店發行

(目次)

- 一、日本思想の傳統と使命
- 二、日本哲學の先蹤道元の正法眼藏
- 三、道得の絕對媒介性
- 四、絕對の歴史性
- 五、時の經歷
- 六、絕對現實の立場

「禪思想の構造」 毛利與一著

定價壹圓八拾錢
京都河原書店發行

(目次)

一、禪と現代の生活感情

(二)

二、老莊の自然主義

三、自然主義の神祕性

四、自然と人間

五、老莊に於ける禪思想の萌芽

六、老莊より禪へ

七、直觀と概念

八、實 驗

九、心

十、自己同一心の否定

十一、無

十二、むすび

「禪の了解と現代哲學的發展」 山口等樹著

菊判三六八頁 昭和十五年七月
定價參圓 東京理想社

序說 禪の體驗と覺悟

一、武士道と禪

二、宗教と現代

三、道元禪師の行觀

四、禪の哲學

五、佛教學及び宗學の前途

六、正法禪と現代哲學

本論 日本禪と現代哲學的葛藤

七、禪の論理的象徴的形態

八、公案と現代の哲學

九、坐禪の哲學的意味

十、祇管打坐

十一、宗教哲學的に見たる日本精神と佛教との統一的意識の問題素描

十二、日本的無

十三、新日本哲學と禪

十四、東洋的世界觀と西洋的世界觀

十五、佛教思想を現代哲學へ導入することに對する論議の批判

十六、禪の哲學に於ける合理性と新時代の科學

十七、七生報國の佛法

〔禪學入門〕

〔禪堂の教育〕

〔禪と日本文化〕

〔禪の鑑賞〕

〔碧巖錄大講座〕^{十五册}

(内13 14 15 無門卷)

〔雜誌論文〕

禪の行的方法の特質に就いて

柴野 恭堂 宗教研究二ノ二

鈴木大拙著 東京大東出版社刊

同 東京三友社刊

同 東京岩波書店刊

(岩波新書之内)

伊藤康安著 東京第一書房

加藤咄堂述 東京平凡社

宗教神祕主義論

禪と實有的有及無

無心

禪の死生觀

臨濟禪より見たる生死の問題

三玄三要に就て

臨濟の四料揀より根器分別に及ぶ伊藤

正法眼藏の論式に關する一歴史觀渡邊

田邊元博士著「正法眼藏の哲學私觀」

正法眼藏の哲學私觀を讀みて

正法眼藏に關する二三の近著に就いて

根本佛教より禪へ

護國の經典と興禪の意義

護國興禪の理論

興亞と禪

禪と東洋文化

東洋文化の基本的性格

莊子の本體觀と禪

岸本 英夫 宗教研究二ノ二

上田 大助 哲學研究二八〇

宇井 伯壽 理想一〇二

中根 環堂 佛教研究四ノ一

伊藤 古鑑 同

對本 愛道 禪學研究 三〇

古鑑 禪學研究 三三

椋雄 宗教研究二ノ一

增永 靈鳳 宗教研究一ノ三

高山 岩男 思想二〇六

大久保道舟 佛教研究三ノ四

日種 讓山 禪 宗五五―五三

伊藤 古鑑 禪學研究 三二

柴野 恭堂 禪學研究 三二

緒方 宗博 同

久松 眞一 禪學研究 三四

柴野 恭堂 同

久須本文雄 正法輪八七、九〇

〔美術、經濟其他〕

東洋に於ける畫論の骨格

小笠原秀實 禪學研究 三四

禪宗の佛像に就いて

伊藤 古鑑 同

禪と茶道

柴山 全慶 禪學研究 三二

「陀」の茶道と禪

同 禪 宗吾四一五五

「力」希閑話

同 禪 宗五四一

天龍寺庭園築造の経緯

重森 三鈴 史迹と美術二〇/四

禪宗教團に於ける經濟生活上の態度に就いて

幅場 保洲 禪學研究 三四

禪語の戶籍調

森 安太郎 禪 宗五三九

禪宗學關係論文目錄(一)

鈴木 大拙 禪學研究 二九

〔支那禪宗史關係〕

〔單行本〕

〔禪宗史研究〕 宇井伯壽著

菊判五一七頁 昭和十四年十二月

定價金四圓 東京岩波書店發行

(目次)

第一 達摩と慧可及び其諸弟子

第二 牛頭法融と其傳統

第三 五祖弘忍の法嗣

第四 五祖門下の念佛禪

第五 荷澤宗の盛衰

第六 北宗禪の人々と教説

第七 馬祖道一と石頭希遷

第八 北宗 殘簡

〔韶州曹溪山六祖師壇經〕 鈴木大拙校訂

和装一二五頁

昭和十五年四月

京都梵文佛典刊行會刊

附錄「六祖壇經」管見二篇

第一、加賀大乘寺所藏道元書「六祖壇經」につきて

第二、壇經及び惠能に關する所見二三

〔雜誌論文〕

支那禪宗史研究の展望

高雄 義堅 支那佛教史學五

初期禪宗史と心性の問題

増永 靈鳳 佛教研究三ノ五

支那上代の禪淨又修思想と其の起源

光知 英學 駒大佛敎學報九

元代兼修の展望

岡田 宜法 駒大實踐宗乘研究會年報七

禪宗の傳統說に就て

鈴木 宗忠 禪學研究 三四

牛頭法融に及せる三論宗の影響

久野 芳隆 佛教研究三ノ六

楞伽禪

同 宗敎研究

北宗禪

同 大正學々報卅二

絶觀論(燉煌出土)撰者考

關口 慈光 同

古尊語錄について

宇井 伯壽 同

「槐安軒語錄」 川島昭隱老師遺稿

昭和十五年十月
美濃清泰寺刊

〔雜誌論文〕

- | | | |
|---------------|-------|--------------|
| 道元の哲學と實踐 | 秋山 範二 | 理想一〇〇號 |
| 日本佛教に於ける道元の地位 | 圭室 諦成 | 同 |
| 不二法門の實踐的把握 | 増永 靈鳳 | 同 |
| 道元と現代 | 佐藤 得二 | 同 |
| 道元禪師の行觀 | 小口 等樹 | 同 |
| 正法眼藏の精神 | 鏡島 元隆 | 同 |
| 道元の本質と發展 | 二名 五良 | 同 |
| 正法眼藏私觀 | 橋田 邦彦 | 同 |
| 道元 隨感 | 岩本 秀雄 | 同 |
| 道元の坐禪箴に就いて | 大江精志郎 | 同 |
| 道元禪師の生死觀 | 岡田 宜法 | 佛教研究四ノ一 |
| 道元禪師の信に就いて | 神保 如天 | 駒大實踐宗乘研究會年報七 |
| 道元禪師の行列的思想の研究 | 同 | 日本佛教協會年報第十一年 |
| 鑿山の思想 | 秋山 範二 | 佛教研究三ノ三四 |
| 天桂傳尊の思想 | 鏡島 文隆 | 宗教研究二ノ二 |
| 菊地氏と大智との關係 | 平泉 澄 | 史學雜誌五ノ九 |

六祖及び六祖壇經と道元禪師 樽林 皓堂 駒大實踐宗乘研究會年報七

初期の支那禪宗に於ける宗教體験の表現形式について 鈴木 中正 佛教研究四ノ三

古 清 規 考 木村 靜雄 禪學研究 三一

敬禪一致說に對する疑問 上田 大助 宗教研究一ノ三

禪源諸詮集都序を中心として觀たる禪教一致の可能性に從ての疑問 釘宮 武雄 佛教研究四ノ二

禪定寺の變遷と其の住僧 古田 紹欽 支那佛教史學 三ノ二

嶺南羅浮山の佛教 同 佛教研究三ノ六

禪宗史上に於ける徑山の研究 同 宗教研究二ノ三

「大宋諸山圖」に就て 白石 虎月 歷史地理學ノ四

「大宋諸山圖」に就て 白石 虎月 禪 宗五三八

三教調和の過程 崎山 文秀 禪學研究 三四

王陽明の遊歷禪刹とその禪的影響 久須本文雄 支那佛教史學 四ノ二

策彦和尚の入明の記録に就て 久保田量遠 大正大學々報元

〔日本禪宗史關係〕

〔單行本〕

「道元禪師研究」第一卷 伊藤慶道著

「鑿瑤の不生禪」(教養文庫之内) 鈴木大拙著

東京弘文堂刊

平泉博士對村上素道師の論評に就いて

緒方 宗博 禪宗五三四—五三六

菊地氏の誠忠と大智禪師

釘宮 武雄 禪學研究 三二

鎌倉時代の禪宗と宋學

魚澄惣五郎龍大佛敎史學論叢

鎌倉時代の禪宗と宋學

同 歴史と國文學二 三〇五

鎌倉時代の禪宗と護國思想

大屋 徳城 禪學研究 三二

宋元文化の移植と禪宗

同 禪學研究 三四

武士道と禪

木村 靜雄 禪學研究 三二

禪宗勃興期に於ける近代的諸要素

小笠原秀實 禪學研究 三一

禪の構造と鎌倉武士

坂田 吉雄 哲學研究二八七

虎關師録の元享釋書と日本精神

福島 俊翁 禪學研究 三二

元享釋書の精神

長沼 賢海 文部省敎學叢書 第八輯

後村上天皇と三光國師

村田 正志 國史學 三八

夢窓國師と興禪護國

對本 愛道 禪學研究 三二

足利基氏の寂室參叩

岩橋小彌太 歴史と國文學二 二〇二

龜山法皇御起願文南禪寺開創に就いて

櫻井 景雄 禪 宗五二五

花園法皇の御證道と興禪護國

小笹原秀實 禪學研究 三三

花園法皇と大燈國師

鎌田 禪商 正法論八九五、八九六、八九九

花園法皇と萩原殿

同 禪 宗五三五

大明國師無關普門禪師を鑽仰し奉る

林 侍雲 禪 宗五四〇

平林寺開山石室禪師の事蹟

柳澤 翠巖 正法論八九一

石室和尚語録を拜して

一 道人 正法論八九一—八九六

空華日工集考

玉村 竹二 歴史地理七四〇

別抄本及び略集異本に就て

玉村 竹二 歴史地理七五〇

蔭涼軒及び蔭涼職考

玉村 竹二 歴史地理七五〇—七五六

五山叢林の塔頭に就いて

同 歴史地理七五〇—七五六

佛敎者の世間道徳

石津 照璽 「日本佛敎の歴史と理念」ノ内

中岩圓月の中正子を中心とする

市川 白弦 禪學研究 三二

江戸時代の禪宗

伊藤 康安 禪 宗五八一—五八六

澤庵和尚の生涯とその思想

伊藤 康安 禪 宗五八一—五八六

澤庵撰「鎌倉巡禮記」に觀る

澤庵五山 春秋 一雄 歴史と國文學二 二〇一

白隠禪に依る日本の精神文化

西 義雄 「日本佛敎の歴史と理念」ノ内

統一とその契機

對本 愛道 禪學研究 三二

白隠禪師と興禪護國

對本 愛道 禪學研究 三二

斯經禪師の茶道觀

柴山 全慶 禪學研究 三四

勤王僧天章の事蹟

萩須 純道 禪學研究 三二

東福了庵桂悟禪師入明考

久須本文雄 正法論七五、七八

京都一尼門跡

中野 楚溪 禪 宗五二一—五二八

日本禪宗史上の疑問

東山 莊 禪 宗五三〇—五三六

禪宗編年史(續篇要綱)

白石 虎月 禪 宗五三一—五三五